

ペットを飼うことで、病院に行く回数が年間で20%も減るそうです。医療費に換算して、ドイツでは年7500億円もの削減効果が認められたというデータもあります。ペットと触れ合うことによって会話や笑顔が増えて、表情も豊かになり、心が癒やされるといわれています。いわゆる「アニマルセラピー」です。ただ、当然のことながら、ペットとの暮らしには最期を看取るまで飼う責任が伴います。安易には飼えません。それを十分に心得た上でペットを家族に迎えれば、緊張感を

ペットは家族

岐阜薬科大副学長 原 英彰



保ちつつも心は癒やされ、ひいては生活習慣の改善も期待されます。

ちなみに子供たちが巣立った私には、妻ともうすぐ96歳になるお義母さんがおり、他に、10年前から小型犬1匹と猫2匹が同居しています。

お義母さんは、当初猫が大嫌いでしたが、仕方がないとあきらめたのか、今では犬も猫も面倒を見ています。まさにお義母さんは我が家の動物園長兼飼育係で、朝、昼、夕の給餌と、庭先での犬の散歩を毎日行っています。また、ペットと会話(?)ができるようによく

話をしています。ペットたちも全員、お義母さんのところに集まって日々を過ごしています。私のところにはあまり寄ってきません。ペットの方もお義母さんの話を理解しているように思えます。

決まった時間に食事やおやつを与える、散歩に連れて行く、猫が脱走しないように戸締りをする、ペットの訴えを聞く等々、ペットとの暮らしは生活習慣に良い効果を及ぼすとともに、お義母さんに責務を与えてくれています。しっかりとしないと小さな家族は気持ちよく過ごせませんから。